



横 浜 市 歌

この市歌は、明治四十二年横浜の開港五十年を記念してつくられたものです。これだけながく歌いつがれ、市民に親しまれてきた市歌は他の都市にはほとんどないということです。ただこの歌には少しむずかしい旋律とリズムがありますので、昭和四十一年市歌普及委員会により原曲を生かしつつ歌いやすくしていただきました。この市歌が新しい市民の方々にあって、横浜を知り、横浜を愛する一つの小さなきっかけになればと思います。

ひとりでも多くの方々にいつまでも愛唱していただければ幸いです。

横 浜 市 教 育 委 員 会

市 歌 々 唱 の 手 引

横浜市歌は行進曲の形式に書かれています。つまり歌詞の「わが日のもとは」から始まって「あらゆる国より舟こそかよえ」までがマーチ（行進曲）の部分で、ここは歩調をとって歩く位の速さで元気よく歌います。マーチの部分の終りの音、歌詞で「かよえ」の「え」の音は十分伸ばします。その後拍子が四拍子になって「されば港の」と歌うところは行進曲形式の中間部「トリオ」と言われる部分で、この曲の場合は、元気なマーチの部分と対照的に静かに柔かく歌います。但しテンポをおそくしないように注意してください。トリオの後半「むかしおもえば」と言うところを強く歌い「とまやのけむり」を弱くし「ちらりほらりと」を再び強く歌いま

す。トリオの終り「たてりしところ」は弱く静かに歌って「ろ」の音を十分伸ばします。それから「いまはももふね」のところまで再びマーチの部分に戻りますから、元気に歌って力強く終ります。

この楽譜に、一般用と学校用の二曲入っていますが、一般用の方は声の高さを低くして、ピアノ伴奏をやさしくしてあります。学校用の方は声を高くして、伴奏をむずかしくしてあります。南能衛氏の原作はト長調で高過ぎますので下げたわけです。

それから「しまじま」のところと「ふねこそ」のところ及びトリオの部分のリズムを歌いやすく改めてあります。

横 浜 市 歌

(原歌を当用漢字、新かなづかいに改めた)

森 林 太 郎 (鷗 外) 作 詞
南 能 衛 作 曲

わが 日 の 本 は 島 国 よ

朝 日 が が よ う 海 に

連 り そ ば だ つ 島 々 な れ ば

あ ら ゆ る 国 よ り 舟 こ そ 通 え

さ れ ば 港 の 数 多 か れ ど

こ の 横 浜 に ま さ る あ ら め や

む か し 思 え ば と ま 屋 の 煙

ち ら り ほ ら り と 立 て り し と ころ

今 は も も 舟 も も 千 舟

泊 る と ころ ぞ 見 よ や

果 な く 栄 え て 行 く ら ん み 代 を

飾 る 宝 も 入 り くる 港